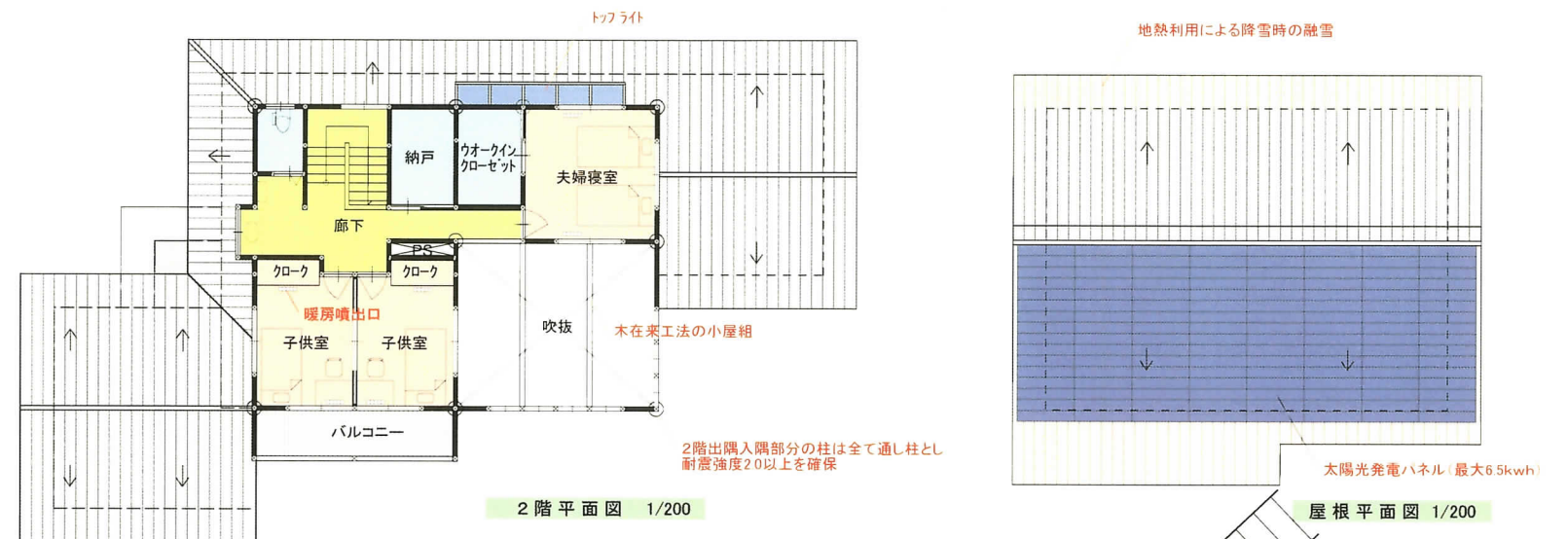


設計コンセプト

日本一とも言われる森林都市飛騨高山の豊かな自然資源である木材を最大限に活用することで地域特性を持った低炭素自主循環型住宅『エコハウス』を創造することをコンセプトとする。当該地域は寒冷多雪地域であると共に、内陸性の気候が顕著で夏と冬及び昼間と夜間の気温差が大きいといった気候特性をもっている。この地域には豊富な森林資源を利用した建築や木工が盛んであり『飛騨の匠』と言われる伝統的な建築技術が伝承されており、独特の建築文化を持っている。『平屋を思わせる様な軒高での木造2階建て』、『深い大屋根の庇と中間部に設けられた小庇』、『木格子による視界の遮蔽と通風』、『間取りの工夫による自然風の取り込み』等は、地域特性から生まれたエコハウスの原点ともいえるパッシブデザインでありました。現在の地球環境の変化や快適性の多様化に合わせ、伝統的な『飛騨の匠』の知恵を生じつつ地域特性を克服した新たなエコハウスを創出するものである。



面積表

1階床面積	130.01㎡ (39.25坪)
2階床面積	65.18㎡ (19.68坪)
延べ床面積	195.19㎡ (58.93坪)
車庫床面積	29.81㎡ (9.02坪)



① 自然通風、昼光、太陽光を有効に利用できる配置、平面計画

配置並びに平面計画をするに当り、今回自立循環型住宅を主たる設計前提条件ではあるが住宅の快適性として敷地周辺の眺望も大切な要素と考えます。計画敷地は東、北方向に市街地の遠景や、さらに北アルプス連峰を望むことが出来ること、又、エコハウスとしてもっとも大切な要素である自然風及び太陽光を取り込みたい南・東方向に杉木立ちの里山があることから、出来るだけその影響から遠ざけるために建物の位置を出来るだけ北側に配置すると共に東西に長い形にすることにより、南北への通り抜けと太陽光を受ける屋根の配置を考慮した。

④ 建物環境性能を有効に発揮できる外構計画

計画敷地は市街地の西部で住宅地を森林地の境に位置し近隣には『飛騨の里』があり遊歩道も整備された自然環境に恵まれた風致地区内に位置している。東、北方向には市街地並びに遠方には北アルプス連峰を望むことができ、四季を通じて市民や観光客がおとずれる場所に位置している。計画にあたっては市民に限らずエコハウスの普及活動、研修者等の気軽に立ち寄り、体験学習も出来るように配慮したものとなっている。メイン道路からの来館に対しては12台の駐車場の確保、又、東側市営駐車場からの徒歩による来場者に対しては敷地西側には遊歩道を設け、施設のアプローチを考慮した。